

NEI Immediate Release: October 09, 2014

## “Japanese Nuclear Officers Tour US Industry’s Response Center in Phoenix”

～日本の原子力部門最高責任者(CNO)がフェニックスの米国原子力業界の緊急時対応センターを訪問～

米国の原子力 CNO との歴史的な相互訪問で、福島事故の教訓、安全文化についての対話を促進

アリゾナ州フェニックス 2014 年 10 月 9 日 日本原子力 CNO 10 名が、今週開催されている米国原子力 CNO との一連の会議の一環として、水曜日(2014 年 10 月 8 日)にフェニックスにある米国原子力業界の新しい緊急時対応センターの視察を行った。2013 年 9 月に米国 CNO が福島第一サイトを訪問し、また安全性および緊急時対応に関する最初の会議が開催されたが、その続きとして設定された相互訪問の一環として、日本の原子力 CNO が緊急時対応センターを訪問した。

この相互訪問は、日米の原子力業界内で、福島事故から学んだ教訓を分かち合い、安全性を向上する方策を協議するために実施されている。今週協議されたトピックスには次のような項目が含まれる。緊急時対応手順、事故進展緩和戦略、安全文化向上、米国原子力業界が自主的に実施している重大な自然事象に対する追加安全対策、緊急時の情報伝達と訓練、そして福島第一原子力で行われている復旧作業、である。

「我々は、さらに継続して改善していく基盤を構築するため、率直な情報交換を継続していく」と NEI 副会長兼 CNO、Anthony Pietrangelo(アンソニー・ピートランジェロ)氏は述べた。

「安全は我々業界の最優先項目である。経験、教訓、困難さと必要な安全性についての情報交換により、安全性をさらに高いレベルに導くことになる。カウンターパートである日本の CNO と協議することにより、運転上の安全性を向上し、安全文化を改善し、重大な事象に効果的に対応する能力が高まった分野を分かち合うことができる。我々は日本の同僚たちと行っている対話に前向きに取り組んでいる。」

フェニックスの施設は 2011 年の福島第一事故からの教訓を踏まえて米国の原子力業界が安全性向上のために建設した国レベルの対応センター二か所のうちのひとつである。もうひとつはテネシー州メンフィスにある。これらの施設は、移動可能な安全設備、発電機、放射線防護設備、ポンプおよび緊急時対応設備など一式を、重大な自然事象発生後 24 時間以内に米国内のいかなる原子力関連施設へも送り届けることができる。

日本の CNO は、フェニックスの対応センターで、Exelon Generation(エクセロン発電会社)の社長兼 CNO、Michael Pacilio(マイケル・パシリオ)氏の歓迎を受けた。パシリオ氏は、

NEI 福島対応ステアリング委員会においてこの対応センター設立に向けて代表保証人でもある。

「原子力業界の FLEX 戦略の一環として、我々の原子力施設に更なる原子力安全対策を備えることになる、この国レベルの対応センターの完成を、日本のみなさんにお見せする機会を得ることができ光栄である。これらの対応センターは、必要なときに、24 時間以内にプラントサイトに追加の緊急時対応資機材を供給することを可能にするものである。これらの施設は、われわれ業界の原子力安全に対する終わりなき追究と、原子力安全のコミットメントについての具体例のひとつである。」とパシリオ氏は述べた。

日本の CNO 達は、今週末の帰国前に、フェニックスの西の Palo Verde (パロ・ヴェルデ) 原子力発電所を見学する予定。

パロ・ヴェルデ発電所を所有し運転する Arizona Public Service Co. 副社長兼 CNO である Randy Edington (ランディ・エディントン) 氏は、パロ・ヴェルデ発電所見学を歓迎していると述べている。

「我々は日本のパートナーをアリゾナに迎えること、そして安全な業界をさらに確たるものにしていくとの原子力業界コミットメントを継続していくことを誇りに思う。米国内であろうと外国であろうと、われわれの業界の長期にわたる品質保証の考え方は、教訓に対する積極的なアプローチを絶えず適用するというものである。」とエディントン氏は述べた。

「米国原子力発電プラント運転者は、常により安全な方法でプラントを運転するという共通のコミットメントの基に、数十年にわたり協力的に仕事を進めてきた。2011 年の福島事故以来、両国の原子力プログラムの向上に向けて、日本の運転経験から学ぶべく日本のカウンターパートとの広範囲にわたる対話を維持してきている。我々は、この前向きな関係を将来も続けたいと考えている。」

以 上